



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

| | | | | | |
|-----|------------------------------------|-----|------------|---------|--------------|
| 創立 | 1964年3月2日 | 例会日 | 毎金曜日12時30分 | 例会場 | オークラ千葉ホテル |
| 会長 | 榊原 行夫 | 幹事 | 小林 透 | 雑誌会報委員長 | 寺澤 一良 |
| 事務局 | 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 | | | TEL | 043-245-3204 |

2011年6月第3週号

第2316回



平成23年6月17日(金)点鐘12:30(雨後曇り)

- ◆ロータリーソング 『手に手つないで』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介 なし

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

今、お食べになっている西瓜は、米山奨学生の閻宏偉さんからの差し入れです。

■ 藍綬褒章お祝

北原 俊彦会員

千葉県の防災業界が、今の形の社団法人が出来るまで、昭和41年に初めて設備士という制度が国によって確立しました。その時から、私はどういうわけか中心におりまして、社団法人、組合等大勢の人達と一緒に作ってきました。そういうような功績が認められたのではないかと思います。また、点検制度についても、全国に先駆けて千葉県でいち早くラベル制度を作りました。業界全体が良くなれば自分も良くなるという考え方で一生懸命にやってきましたつもりです。これからも頑張ります。

有難うございました。

■ 委員会報告

親睦委員会より (北原俊彦委員長)

新・旧親睦委員会の引き継ぎ会と、先般、開催した親睦旅行の砂払いを行いたいと思います。

日時⇒ 7月6日(水)18:00～ 場所⇒ 「和ひろ」是非ご参加ください。

■ ニコニコボックス報告

☆榊原 行夫会員

北原さん、国家褒章おめでとうございます。益々のご発展をお祈り致します。

☆植松 省自会員

川合会員、本日の卓話、宜しく願い申し上げます。楽しみにしております。北原会員、藍綬褒章の受章おめでとうございます。

☆小野 成子会員

胆石が胆管に詰まり、また、胆のうの入口を塞いだりしてやっかいな手術となり、やっと退院出来ました。榊原会長をはじめ、会員の皆様には温かいお見舞いを戴き、有難うございました。体調が元に戻りましたら、又、皆様と一緒に活動させて頂きたいと思っております。本当に有難うございました。

☆出井 清会員

北原さん、このたびの褒章受章おめでとうございます。業界発展のために寄与された証です。当、千葉南クラブについても引き続き引っ張って行って下さい。本当におめでとうございます。当時の北原会長時の幹事役として嬉しいです。

☆水野 謙一会員

皆様のご協力のお陰で無事ガバナー補佐の任務を終了することが出来ました。有難うございました。

☆北原 俊彦会員

6月15日付の新聞に春の褒章で私の「藍綬褒章」を受章する記事が出ました。6月29日に皇居に向向き、天皇陛下に拝謁することになりました。

| | | | |
|-------------|----------|----|-----------|
| 本日のニコニコボックス | 14,000 円 | 累計 | 622,000 円 |
| 金の箱 | 510 円 | 累計 | 35,118 円 |

■ 出席報告 (会員数38名)

| | | | |
|--------|--------|--------|--------------|
| 出席者数28 | 欠席者数10 | ピンター 0 | 修正出席率 78.95% |
|--------|--------|--------|--------------|

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップをご利用下さい](#)

| | | | |
|--------|---|------|----------------|
| 千葉RC | 月 | — | 三井ガーデンホテル千葉 |
| 千葉西RC | 火 | 6/28 | センシティタワー「東天紅」 |
| 千葉常張RC | 火 | 6/28 | アパホテル&リゾート東京ベイ |
| 新千葉RC | 水 | 6/29 | 京成ホテルミラマーレ |
| 千葉北RC | 水 | 6/29 | ホテルポートプラザちば |
| 千葉中央RC | 木 | 6/30 | 三井ガーデンホテル千葉 |
| 千葉港RC | 木 | 6/30 | 京成ホテルミラマーレ |

演題…『ゆめ半島房絵の美術 パートII』

卓話者… 川合 枢栄会員



榊原年度の例会卓話のトリを務めます。非常に名誉な事です。拙い話ですが精一杯お話ししたいと思います。

昨年の千葉の活躍はとても立派なものでした。先ず、ビックニュースだったのは、千葉が国体

で優勝しました。これが記録の1番でしたが、2番目は千葉ロッテが接戦を征して優勝したこと、3番目が千葉市の美術館が有史依頼の最高の賑わいだったことでした。私も行って見ましたが、行列でエレベータが上がれないほどでした。図録を買うのに並んでいるのです。箱詰めでビニールの袋に入れる手間がないくらい売れていました。案の定、途中で売り切れてしまいました。聞いて見るとハガキ一枚も無いほど売れていたようです。記念に買うものないくらいでビックニュースの一つになりました。なぜ千葉市の美術館で、そんな開館以来の記録を出したのかと考えてみましたら、それは仕掛けが良かったことでしょうか。

以前、田中一村と言う作家がおりまして、この作家は千葉の千葉寺町に昭和30年に栃木から引っ越してきて住み着いたのです。田中一村さんは芸大の同期に平山郁夫がいるのですが、どういうわけか3ヶ月で辞めてしまいました。自分独りでやると言っ、東大以上に難しいといわれた芸大にせっかく入ったのに辞めてしまったのです。それが後を引いていたのか、のちのち文展、日展、院展に出すたびに落選です。かなり腕の立つ人がどういことかと思ひました。芸大にいれば良かったのではないかと私は思うのです。作品は、農家に大根を干しているといったような千葉寺の風景画です。珍しいのは、仁戸名の療養所の上の方の風景で、その辺を書きまくっていたようです。最初に千葉寺に来たのは昭和13年で、千葉寺に親戚があったようです。30歳の時から54歳までの20年間、千葉寺で生活をしていました。最後は、奄美大島に渡ったのですが、奄美大島では苦しい生活の中で絵を書いていたのです。それから、一人者でしたので、急死した時、誰も看取った人はいなかったことでした。奄美大島では、本領を發揮したシャープな絵を発表していましたが、NHKが日曜美術館で発表したことで、爆発的な人気が出たのです。千葉はそんなことから特別にやらせて頂いたのですが、鹿児島にも田中一村の美術館が建設されたようです。

今日は、県内にあるいろいろな美術館の個性をご紹介します。千葉国体のポスターのチーバ君ですが、辰のおとし子みたいな面白い格好をしています。先ず、銚子からお話ししますと、銚子は本州では一番東に位置していて、日の出が一番早いところですが、丁度川と海と絶好の場所にあるものから、魚の売上は

日本一という優秀な漁港です。その他に灯台が絵になるのです。君ヶ浜の方から描いたり、逆に長崎鼻の方から描いたり、絵描きであれば一度は写生してみたいというジンクスがあるのです。

次が九十九里です。百と言わずに九十九里です。文学的な良い名前をつけたものだと思いますが、ご存知のように弓状に弦を張ったようになっているので、港が出来ないのですが、目の前が海ですから、九十九里の“おっぺし”という船を出す作業があります。港がない関係から船を丘に揚げなければなりません。又、翌朝海に出るときには日の出に家族総動員で船を海に出さなければならないのです。これは伝説なのですが、病気を防ぐという意味で男性は一物を藁でちよつと縛る、一応女性は人が聞いても下着1枚で働くという、正に原始的なダイナミックな風景だったなんて言うておりましたので、私はまさかそんな事はないだろう、でも行くだけ行ってみようと思っ、行って見ました。砂の上を一斉に出ますので、のんびりしてられないのです。アツと言う間の出来事で、描く時間もありません。こっちが出て終わると、50メートル先の船が出ますから、砂場を駆け足で行って写真を撮ったのですが、昔の事ですから露質が悪くて写っていないのです。真っ暗なのです。二度目に早く起きて挑戦したら、今日は潮の関係で船は出ませんと言われて、パーになったのです。三度目にやっ、と条件に叶って、狙ったのは海岸を描いて重要文化財になった青木繁の絵に挑戦してやろうという無謀な野心で描いたものです。まあとてもじゃないけど、35年も前の話ですから、一応“おっぺし”という題で英文で書いて海外に紹介する本に紹介されました。

次は、茂原の理想郷になりますが、これは前回話しましたので省略致します。それから更に下りまして、千倉までがお花畑ですから、かなりの作者が出ております。それから上がりました館山の米良海岸についても前回お話した通りで、これも省略します。そこから上がりますと、ロータリーで行きました浮世絵作家の菱川師宣で有名な保田(鋸南町)です。鋸山と富津の美術館がセットになりまして、最近では、料理が美味しいのと、風光明媚な場所が多いので、かなり賑わうようになったという話です。

千葉県でスケッチが出来ない場所がありました。富津から木更津にかけて、写真撮影もスケッチもいけないということで、列車で通る時には富津側の窓を全部閉めさせられたのです。軍隊の東京湾を守る為の要塞地帯が富津の港に出るということからでした。戦後、行って見てもそれ程には思われませんでした。ただ岬の状態が琵琶湖の風景に似ていて、砂の上に松が綺麗に並んで、誰もが魅力的に感ずるのではないかなと感じました。今は、誰が何処を描こうと自由です。袖ヶ浦から木更津間が京葉工業地帯で、特に石油コンビナートが集中しておりますので、夜景が綺麗ですね。昔は考えられませんでした。

地元の千葉に面白い美術館が沢山出来ました。先ず花の美術館というのが磯部の手前にございます。これも全国ではちょっと珍しいと思います。もう一つは、新しい美術館で、千葉の土気に具象絵画だけの美術館が出来

ばかりです。そこは、ホキ美術館といいまして、医者
の資産家が美術が好きで、新しい方法で今までにない造
りで展示しています。絵は写真よりも細かいのです。ここ
までやって良いのかなという気がしました。中には売れ
子の森本草介の絵が評判を呼びまして手に入らない、
その絵がズラッと並んでいます。大変見やすく展示し
ています。駐車場は工事中ということですから、考慮に
入れて行かれると良いと思います。余談ですが、館内の
イタリアン料理のコーヒーは大変美味でした。

皆さん良くご存知の佐倉市に佐倉連隊の跡地を利用
して建てられた「国立歴史民族博物館」があります。初代
館長の松戸節三先生の案内でロータリーで行ったことが
ありますが、たまたま、その年は春が遅くて桜と菜の花と
梅が一度に咲いていて大変見事でした。馬寄のところの
広場が駐車場になっていましたが、その回りの桜は私が
作品にしまして新聞社に入っています。

そこから上に行きますと佐原があります。佐原は小野
川べりの蔵の町ですが、これが又絵になりました。今回
の地震で大部壊れたようですが、直すのは大変だと思
います。最後に市川ですが吉沢庭園美術館がございま
す。柏方面から上がりましてところに綺麗な庭園があ
って、その一面に市民が寄付をしたものだそうです。美
術館があります。これは相続税で納めたようです。

特殊な美術館として、成田山が経営する書道美術館
があります。これは書道専門ですから、立(タチ)が高い
美術館で寺社の書経の練習用でしょうか、これも珍しい
と思います。独特のユニークな美術館が多くあります。

八日市場、今は匝瑳市になりましたが、面白いのは鉄
の塊を加工して彫刻として見せています。但し、これは
店外に展示してあるのですが、店内にはその年のいろ
んな個展をやられるようです。これも珍しいと思います。

その他に稲毛にギャラリーがありますが、これは小さい
のですが神谷電気ブランの別荘を利用しているようです。
先ほどお話ししたホキ美術館は出来たてですから、宣伝
広告に1億2000万円掛けているとのこと。千葉は
大変恵まれています。

今、日本で一番人気の高い絹谷幸二先生の個展が
日本橋三越で開かれていましたが、行列が出来ていま
した。これが1号当たり、200万円でしたが、こんなもん
がねえと言う感じでしたが、2~3点出ておりました。これは、
高いから良いつてものではないと思います。絵を見て、
自分に合うか合わないかが基本であって、それは大事な
ことだと思います。昔の話ですが、全国医師会の会長を
していた武見太郎先生が、厚生大臣のところに行き交
渉に行く際に、先ず自分の住まいの中に波濤の絵を飾
ってある部屋でお茶を飲みながら、その部屋で闘志を掻
きたてて、それから大臣のところに行き交すというので
す。帰ってきてからは、心を静かに静める絵の部屋で
お茶を飲むと心が治まるのだそうです。絵は癒しと、
励ましとがあるということです。

私の師匠は10年前に亡くなりましたが、日展の審査
員を長く務めておりましたから、それなりの名誉があ
りました。師匠の師は、文化勲章の受章者でもありま
した。不思議なもので今年の春、仲間同士の競り市
があって、出

入りのギャラリーの親父さんが、絵を持ってきたの
ですが、そこに師匠の絵が出ていたのです。一応半額
の50万で落札したとのことを持って来られましたが、
半額とは言わないが、ある時払いの催促なしでとい
う良い条件を付けていただきました。今、店の真中に
掛けてあります。これは若い頃の作品でしたので、
作品の技法にも知らない事もありましたし、作品に
勢いがありますので、疲れて帰ってきても、心が洗
われるような気が致します。湖の絵ですが、長野県
の白樺湖だということです。霧が流れていて、明る
い素直な絵ですから、それを見ると又元気が出て、
「やるぞ」という気が起こるのです。

これから皆様も、日展、院展その他沢山の展覧会
に行かれると思いますが、絵を見る要領は、好きな
絵のところまで止まってゆっくり見ることです。い
くら良い絵でも、自分に合わない絵のところは、
どんどん飛ばして行くことです。それが絵を見る
要領だと思います。

ちょうど時間になりました。拙い話しをご清聴
頂き、有難うございました。(文責 寺澤 一良
会員)



ホキ美術館(緑区あすみが丘)について

ホキ美術館は世界でもまれな写実絵画専門美術館
として、2010年11月3日に千葉市緑区に開館しま
した。そのコレクションは、館長保木将夫が収集
した写実絵画作品、約300点から成っています。
千葉市最大の公園である緑ゆたかな昭和の森に
面した、地上1階、地下2階の三層の計500メ
ートルにわたる回廊型ギャラリーでは、日本最
大の森本草介コレクション32点をはじめ、野
田弘志、中山忠彦など、約40名の現代作家
による写実の名品約160点を、常時ご覧いた
だくことができます。一部鉄骨造によって空
中に浮かせ、窓からは森が見渡せるギャラ
リーもあります。また、地下2階ではホキ美
術館のための描きおろしを中心とした100
号以上の大作「私の代表作」を展示してい
ます。(ホキ美術館HPより)



第2317回例会

日時⇒ 平成23年6月24日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『会長挨拶』

卓話者⇒ 榊原 行夫会長

〈クリスタルボウル演奏〉

奏者 佐々木 里江様 山内 恵様

第2318回例会

日時⇒ 平成23年7月1日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『会長挨拶』

卓話者⇒ 出井 清会長